

持続型職業人SOZOプロジェクト

プロジェクト演習中間発表会

平成23年8月9日

豊橋創造大学 情報ビジネス学部

— 情報ビジネス学部 —

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト演習 中間発表会

1. 順番

<第1セッション>

順番	発表時間	ゼミ名	プロジェクトテーマ
1	14:55 ~ 15:00	石田ゼミ	外食産業におけるロジスティクス・システムの研究
2	15:02 ~ 15:07	今井久ゼミ	福祉施設で紙芝居
3	15:09 ~ 15:14	今井正ゼミ	ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動
4	15:16 ~ 15:21	五味ゼミ	認定試験に受かるための学習環境と運営
5	15:23 ~ 15:28	中野一ゼミ	会計事務所の業務内容と組織に仕組みを知る
6	15:30 ~ 15:35	中野聡ゼミ	社会的企業の実証研究
7	15:37 ~ 15:47	見目ゼミ	豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの稼働状況調査

<第2セッション>

順番	発表時間	ゼミ名	プロジェクトテーマ
8	16:10 ~ 16:15	花岡ゼミ	豊橋筆プロジェクト
9	16:17 ~ 16:22	三好ゼミ	豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト
10	16:24 ~ 16:29	森田ゼミ	東三河における繊維産業
11	16:31 ~ 16:36	山口ゼミ	炎の祭典支援プロジェクト
12	16:38 ~ 16:43	吉川・片岡ゼミ	東三河 Bible
13	16:45 ~ 16:55	三輪ゼミ	学食広報プロジェクト by 学食おうえん団

2. 時間配分

- ◆ 発表時間は1プロジェクトあたり5分間とする。ただし、延長を希望したプロジェクトは10分間。
- ◆ 発表時間終了1分前で1鈴、終了で2鈴を鳴らす。
- ◆ 質疑応答はセッションずつまとめて10分間とする。

「外食産業におけるロジスティクス・システムの研究」

石田ゼミナール

1. プロジェクトの組織

石田研究室 山田十五 野間洋祐
井垣翔太 洞口貴紀
指導者 石田宏之

協力企業

- ・ 物語コーポレーション (株)
人材開発部部长
購買部マネージャー
- ・ ワルツ (株)
外食営業部統括マネージャー
- ・ KRS (キューソー流通システム)

2. (株) 物語コーポレーションの企業概要

- ・ 創業 1949 年 12 月
- ・ 設立 1969 年 9 月
- ・ 代表者 小林佳雄
- ・ 資本金 7 億 1254 万円
- ・ 売上高 12,781 百万円
* グループ店舗売上高 約 225 億円 (2010 年 6 月現在)
- ・ 従業員数 社員 379 名 時間制従業員 2,786 名
- ・ 出店状況 直営 91 店舗/FC106 店舗

主な事業内容：外食産業（焼肉、ラーメンおよびお好み焼レストランチェーン、専門店）の直営による経営とフランチャイズチェーン展開

3. プロジェクトの背景と目的

<背景>

学生の主体的な活動（プロジェクト活動）を通して、コミュニケーション力や協調性を養成するとともに、各期はじめに実施するメンタルタフネス講座での背景や理論に

ついて理解を深化させる。また ICT（Information Communication Technology）能力の向上や卒業生ネットワークの構築を進める。それらを通して学生の就業力を向上し、就職状況の改善を目標とする。

この補助事業を請け、学内に「持続型職業人プロジェクト」を立ち上げて事業を推進する。

<目的>

物語コーポレーションの各店舗への商品供給（物流）の実態を調査することによりロジスティクス・システムの役割と課題を学び、プロジェクトを通して、要約の仕方、メモの取り方、テーマの進め方、問題発見能力、分析力、理解力などを習得するとともに、相手先との交渉、ヒアリング、施設見学などを通してコミュニケーション能力、あいさつ、態度などの接客能力等の社会人基礎能力を養う。

4. プロジェクトの内容

- ・ ロジスティクス・システムの研修
- ・ 相手企業への依頼内容検討
- ・ 相手企業へのヒアリング実施（相手先の現状と問題点の洗い出し）
- ・ 物流拠点の機能に関する研修と施設見学
- ・ 物語コーポレーションのロジスティクス・システムの整理と不足事項の検討
- ・ プロジェクトの成果の検証とまとめ

5. プロジェクトの現状報告

- ・ 物語コーポレーションおよびワルツの企業概要の調査
- ・ 物語コーポレーション物流概要の調査
- ・ 物語コーポレーションが委託されている
- ・ ワルツへの施設見学
- ・ 要約およびメモの取り方の練習
- ・ ロジスティクスについて学習

「福祉施設で紙芝居」

今井久登ゼミナール

1、概要

私たちのゼミでは、福祉施設に訪問し、ボランティア活動を行うことになった。その背景として求人雇用とのミスマッチがある。

介護福祉の仕事を理解することと福祉施設が今必要としている事を理解する上で、施設に訪問する。



2、プロジェクトの内容

福祉施設を訪問し、紙芝居のボランティア活動を行うために、毎週木曜日の5限に図書館3階の特別講義室にて練習を行った。

福祉施設に訪問し、ボランティア活動をするためにアポイントメントを取り事前訪問を行った上で活動日などを決定した。

紙芝居の項目

- ①かさ地蔵 …… 天野
- ②けちべえさん …… 竹下
- ③かちかち山 …… 芝崎
- ④ぼたもちを食った仏様 …… 古川
- ⑤シンデレラ …… 全員
- ⑥わらしべ長者 …… 今井久先生



3、終わりに

福祉施設に初めて訪問しどのような施設なのかが分かった。お年寄りとのコミュニケーションの難しさを実感した。福祉や介護士の仕事を少し知ることができた。



ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動

1. プロジェクトの組織

プロジェクトの組織は次のようになる。特定非営利活動法人インターネットラーニングアカデミー 事務局 佐藤雅一、広島国際大学 工学部 情報通信学科 助教 越智徹、豊橋創造大学情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 教授 今井正文、3年 西山拓磨、木村翔太、4年 小倉巧夢、松野啓右、井本博崇、白井雅也、高須健太

2. プロジェクトの背景と目的

2.1 プロジェクトの背景

CompTIA Strata 認定シリーズは以下の社会人もしくは学生などを対象に作られた IT に関する基本となる知識、スキルを認定するプログラムである。

- ・ IT に関係する営業職種の方
- ・ 新たに IT 関連の職務に就かれる方
- ・ IT 関連の就職を希望される学生

CompTIA Strata は自身が使用する PC の管理やメンテナンスなどを中心に問題が構成されている。IT スキル育成のファーストステップとして活用できる。

2.2 プロジェクトの目的

このプロジェクトはビジネス系学生のための情報処理資格である CompTIA Strata IT Fundamentals に向けた電子コンテンツの改善活動を行う。このような活動を通じて情報系の学習方法を学ぶとともにそれを支える事業や技術を体験する。

3. プロジェクト内容

プロジェクトの内容は、ILA (internet learning academy) から配布予定である電子コンテンツのテストおよび開発活動に参加する。電子コンテンツは ipad に展開が予定されており、今回貸与された ipad を用いてコンテンツ(pdf,ppt)のテスト、報告、改善のほか、可能ならば小テストシステムの開発活動に携わっていく。このような活動を通じてコンテンツ事業に関しての勉強方法を学んでいく。

4. プロジェクトの現状報告

プロジェクト開始当初は広島国際大学側から CompTIA の電子コンテンツデータを受け取り PDF 化し、ipad で閲覧できるようにした。さらに広島国際

大学側の作業要望を確認し、PDF 教材の修正を行った。PDF 教材を使用しての模擬授業を行う等しながら、電子コンテンツの改善を行いつつ、このような作業を通じての情報系の勉強方法を学んでいる。電子教材の一部を図 4.1、修正コメントを図 4.2 に示す。

ワークステーション

Internet Learning Academy

- ・ 3DCG や科学技術計算などの特別な用途のために用いられるコンピュータ。
- ・ 高速な CPU、大容量のメモリやハードディスクを搭載している。

かつてのワークステーションの代名詞 SGI Indigo シリーズ 映画等で 3DCG 専用マシンとして世界中で販売・導入された



図 4.1 電子教材の一部

違和感を感じた箇所

p37 - 38 に続いている表 3 - 1。

p44 のお気に入りへの整理の 2. (イ) の文章。中途半端に次のページに続いている。

p49 の 4.4.3 の 5. の文章。中途半端に次のページに続いている。

p53 の一番下にある章末問題のタイトル。p54 の一番上に持って行った方がいい。章末問題の内容、選択問題が多いような気がする。答は別々にした方がいいと思う。

図 4.2 修正コメントデータの一部

5. 今後のスケジュール

今後はもう一つ電子コンテンツの ppt 教材のテスト、報告、改善を行っていく予定である。実際に開発していく予定である。また、moodle を利用し小テストやクイズ等を作成していく予定である。Moodle の例を図 5.1 に示す。

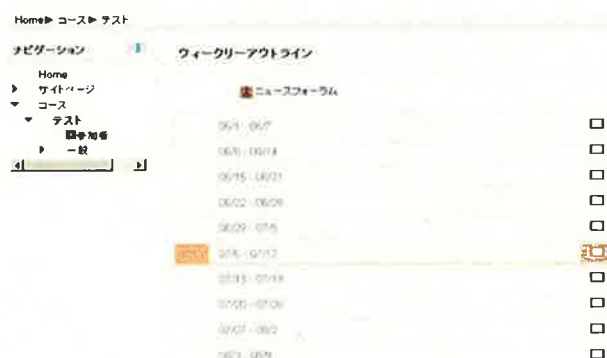


図 5.1 moodle の例

認定試験に受かるための学習環境と運営

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科

五味プロジェクト

中村恵美 平井千瑛

診療情報管理士とは？

診療情報管理士とは、診療記録および診療情報を適切に管理し、そこに含まれる情報を活用することにより、医療の安全管理、質の向上および病院の経営管理に寄与する専門的な職業です(図1)。¹⁾

目的

- ・診療情報管理士認定試験の合格率を上げる。
- ・学習効果を高めるため、CBTを構築し、パソコンで模擬試験を受けられるようにする。
- ・近隣医療機関やOB/OGとの良好な関係を構築する。



図1: 診療情報管理士関連テキスト

内容

学外も含め、自主勉強会と対策講座の企画運営を行ない、常にパソコン上で模擬試験を受けられる環境も構築する。また、OB/OG訪問を行ない、就職活動に役立つ知識の修得や就職先などの開拓も行なう。

現状報告

- ・問題集のデジタル化を頼む会社を選定するため、スキャンサービスを行っている企業の具体的なサービスをExcelにまとめました。
- ・問題集のデジタル化を、スナップブックという会社にお申しました。
- ・認定試験対策講座の企画運営は、日程と案内作成、教室確保までできました。
- ・自主勉強会の企画運営は、ML(メーリングリストといい、参加しているメンバー全員にメールが配信されるシステム)で試験を受ける人数を調査中です。実施日程決めと案内作成、教室確保はできていません。
- ・OB/OG訪問は、6月7日(火)に元町病院へ訪問しました。あと2件ほど訪問する予定です。訪問先は、刈谷豊田総合病院と可知病院を予定しています。
- ・OB訪問の報告書を完成させました。
- ・ゼミ内の中間報告を完成させました。
- ・中間発表会の資料作りを完成させました。

今後のスケジュール

日程	内容(予定)
7月	・自主勉強会の日程を決定する。
↓	・CBTを稼働をさせる。
2月	・認定試験対策講座のポスター作り。 ・学外と学内にポスターを貼る。 ・自主勉強会、認定試験対策講座を実施する。

参考文献

1) 日本診療情報管理士会 Web サイト <http://www.kanrishikai.jp/first.html>(11/07/29)

会計事務所の業務内容と組織に仕組みを知る

1. 目的

金融機関や会計事務所さらに会社の事務職への就業を考えると会計の理解は基本である。そのために簿記検定問題を解き、弥生会計でデータ入力し実際の会計業務に近い体験をする。その上で、会計事務所を訪問し、その実態を知る。

2. プロジェクトの進め方

(1) 会計事務を知る上で、欠かせないのが簿記の基礎知識である。そこで、日商簿記検定試験3級の問題集を解いてみる。

(2) 会計業務に近い体験をするために、C33教室で、教育用ソフト弥生会計を使い取引例のデータを入力していく。

(3) データをプリントアウトし、決算書をはじめ仕訳日計表、総勘定元帳、現金出納帳など補助元帳をゼミ生同士でチェックする。

(4) 入力したデータのミスを発見し、修正し再度(3)の資料をプリントアウトする。

(5) 以上の体験をもとに、会計事務所を訪問し、公認会計士、税理士の仕事がどんなものか質問を通じ理解する。小畑公認会計士事務所を7月18日(月)に訪問した。

3. 知り得たこと

3-1 会計事務所を訪問して

①会計事務所を経営している所長さんの強い信念が事務所発展の基盤となっている。

特に、地方で展開する場合、都市にはない魅力ある事務所の環境は当然の事、関与先との強い信頼と信用で長くお付き合いが続く事を知った。

②関与先の事業承継問題まで考慮して、業務内

容も主要な監査、税務にとどまらずソフトウェアの販売と初期指導、生命保険の指導業務まで拡大しているとの事。広く浅くでも良いから常に関与先への配慮を怠らない姿勢を感じた。

③会計に関連した就業先を考えると、最低限日商簿記検定試験3級、2級に合格しておくべきだとの示唆を得た。

3-2 今後のプロジェクト演習ですること

①取引の仕訳ができるよう修練する。

②基本的な試算表、精算表の作成を完全にす。

③貸借対照表、損益計算書という財務諸表の作成に精通する。

④伝票会計になれる。

⑤弥生会計の操作に慣れ、取引例を自らの理解のもと、データ入力し決算に必要な資料を入手できるようにする。

4. 結論

プロジェクト演習も、まだ始まったばかりで、ゼミ生一同力不足を感じている。

ただ、会計事務所への訪問といった日常経験を積んだ事は、3-2の実力を一層向上するよう努力したい。

社会的企業の実証研究

1. プロジェクト概要

(1) プロジェクト名 社会的企業(および社会的経済)の実証研究。

(2) 社会的企業の実証研究 社会的企業(social enterprise)——広義の概念としては(協同・共済組合などを含む)社会的経済(social economy)——は、利潤獲得を第一義的目的とせず、環境問題や貧困問題などの社会的問題の解決と社会貢献を主要目的とする企業活動を指す。その一部は長い伝統をもつが、欧米社会における動向をも背景に、多様な社会的企業が東三河および三遠南信地域に設立されてきた。このプロジェクトでは、内外の動向に関する理解を踏まえ、特定企業の経営組織と活動を検証、その可能性と課題を探る。

⇒ このテーマは、ゼミ共通テーマ「欧米における社会的(市場)経済」と連動している。

(3) プロジェクトメンバー 実地調査は、希望により男女別(3名&2名)グループを中心に行うことにした。

2. 実施計画と終了部分

【終了および一部終了部分】

(1)(タスク No. 0) 作業時間会計 … 作業過多にならないよう、中野(聡)ゼミでは各メンバーの作業時間会計を計算、労働力の割り振りを行っている。

(2)(T1) テキスト輪読①/ 社会的企業とは何か? … テキストの輪読(2-3回)。テキストは、谷本寛治『ソーシャル・エンタープライズ—社会的企業の台頭』中央経済社 2006年；斎藤 慎『社会起業家—社会責任ビジネスの新しい潮流』岩波新書 2004年など。社会的企業概念と類型の学習。

(3)(T2) SENA 第一回起業報告会参加 … 5月22日(日)、本学教員が審査委員を務める SENA(三遠南信地域連携ビジョン推進会議)の起業報告会に参加。状況理解と実証研究対象企業の検討を目的とした。

(4)(T3) 社会的企業のリストアップ(三遠南信地域) … 社会的企業の形態および地域企業のリストアップ。HPを用いて行い、①SENA登録および協力企業と団体(東三河、遠州、南信州の地域および形態別)、および、②それ以外の企業と団体のリストを作

成。これらのリストは、包括的ではない。

(5)(T4) 実証研究対象企業の特定と照会 … 学生の希望により、豊橋市内のNPO法人WAC(東三河障がい者しごとセンター)およびサーラコーポレーションの社会貢献事業を研究対象(第一希望)とすることに決定。前者は片岡先生の紹介、後者は、キャリアセンターの支援を受け、人事戦略部長草柳氏に総務部長小林氏を紹介していただいた。

(6)(T5) 第1回事例研究 … 8月4日にサーラコーポレーション総務部にてインタビューを予定。

【秋学期の作業計画】

(7) 実施計画予定 … これからの作業計画。

・第2回事例研究 … 収集資料とインタビューの分析、第2回事例研究、収集資料とインタビューの分析、(必要に応じ)第3回事例研究。

・テキスト輪読②/ 社会的企業とCSR … 海外と国内の社会的企業およびCSR(企業の社会的責任)の考察。事例研究を、一般的枠組みに位置づける。

・論文の作成 … テキストと事例研究から論文を分担作成。

・研究成果の還元 … プロジェクトセミナー研究発表会での報告。完成論文は、調査にご協力いただいた企業と団体に提出。



中野 聡ゼミ

小野田 好輝・河村 浩矢・神島 健作
田邊 有希奈・山崎 智香子

豊橋市内小中学校の 太陽光発電システムの稼働状況調査

見目ゼミナール 杉浦克希 杉原秀俊 田代和之

1. はじめに

石油・石炭などの化石燃料は残り数十年で枯渇してしまうため、再生可能エネルギーの利用を促進する必要がある。その中でも太陽光発電は、無限にある太陽の光エネルギーを利用するもので、家庭にも設置しやすいシステムであるため、私達の生活には一番身近なものである。このクリーンな次世代エネルギーの太陽光発電について、調査・研究を行う。

2. 活動の目的

太陽光発電は、天候、日射の強さ、設置方法、日陰の影響(障害物・ビル)などによって発電量が大きく異なる。メーカーにより、その発電性能に差が生じることもある。設備自体は可動部がほとんどないためにメンテナンスもほとんど必要はないが、パワーコンディショナーは10年単位で交換が必要となる。一方で、1年以内の故障率が10%以上との報告もある。こうしたことから、発電に関する基礎データの長期収集・分析が必要である。

豊橋市では、平成22年3月30日に市内全小中学校74校に太陽光発電設備の設置が完了した。

これらのシステムを対象に、太陽電池のメーカー、発電量、設置方角、大きさなどの基礎的な情報を収集するとともに、発電に関するデータを収集・分析する。

次に、収集した情報を生かし、次世代を担う学生と児童のエネルギー・環境問題への意識を高める環境教育コンテンツの開発に取り組む。

3. 小中学校への導入システム

これまでに、豊橋市内にある羽田中学校、吉田方中学校、豊城中学校の3校を訪問し、システムを見学した。図1にはそれらシステムの外観を示す。3校とも太陽電池メーカーはKyoceraであり、またパネルが設置方位は南であった。しかし、発電容量には違いがあり、また太陽電池パネルの枚数、パネルの取り付け角度などにも違いがみられた。

また、豊城中学校および吉田方中学校では発電量がパソコンにより計測されていたが(図2)、羽田中学校では計測されていないとのことであった。

4. 今後の予定

今後、発電量データを収集し、それらのデータを分析して、実際に設置されたシステムがメーカーの提示した発電量を達成しているかどうか、また、方位・角度、日陰などが発電量に影響を与えているのかどうかを検討する。また、小中学校の環境教育の授業を見学し、教育コンテンツの開発への取り組みを検討する。



図1 太陽光発電の導入例
(上:豊橋市立羽田中学校、
中:豊橋市立豊城中学校、下:豊橋市立吉田方中学校)



図2 太陽光発電の計測システムの例

豊橋筆プロジェクト

～伝統工芸品の普及と地域の活性化を目指して～

花岡ゼミ：大坪孝嘉 大堀章吾 原田敏幸
杉浦史彦 古田和也

1. プロジェクトの概要

豊橋筆は書道用高級筆の分野で日本一のシェアを誇る豊橋の地場産業である。しかし、豊橋市民ですら、この江戸時代から続く伝統工芸を認知している人は少ない。本プロジェクトは、この豊橋の伝統工芸である豊橋筆の幅広い普及と地域の活性化に向けた展開として、大学生によるアイデアの創出、商品企画及びPR活動を通じて地域の活性化を図ることを目的とする。



豊橋筆

2. プロジェクトの内容

- ① 豊橋筆(お土産用ミニストラップ)の商品企画
 - 既存商品(ミニストラップ)の製造工程を学ぶ
 - 市場調査
 - 商品開発(試作品製作、販路開拓、プロモーション)
- ② 豊橋筆の普及・PR活動を通じた地域の活性化
 1. 地元企業や団体との連携によるイベントの実施
 2. HPやメディア等における情報発信



ミニストラップ



筆匠榊原にてミニ筆作りを学ぶ

3. プロジェクトの現状と展開

- ① お土産用ミニストラップ商品の企画(試作品製作)
『豊橋紹介セット(仮)』
 - 観光客や市民のお土産用途を考え、パッケージに豊橋を紹介するイメージ・文章を入れる。
 - 観光地の絵はがきを模して、4～5種類のパターンを作成予定
 - 商品化に向けて豊橋観光コンベンション協会、商工会議所地域振興課と相談中
 - ※画像などの使用許可(手筒花火、のんほいパーク、路面電車、カレーうどん、トヨッキー、…)
 - ※豊橋市のシティプロモーションとの連動
- ② 豊橋筆の普及・PR活動を通じた地域の活性化
『豊橋三大学サマーカレッジチャレンジショップにおける商品販売と普及イベントの実施』
 - 本プロジェクトメンバーが実行委員として参加し、販売ブース・イベント企画を運営・実施する。
 - 『豊橋筆を使った書道と太鼓の競演』、『豊橋筆を使った絵手紙教室』、『手作りストラップ』などの実施『HPの作成と情報発信』
 - HP、ブログ、Twitter、Facebookなどを利用した情報発信を実施する。
 - HP作成のアドバイザーとしてTwitter・Facebookを使って町おこしを実践する豊橋の社会起業家であるS.I.plant 山本啓介氏に協力を依頼し、効果的な情報発信の方法を検討、実施する。



試作品



HP製作会議

4. 協力者

- 有限会社 筆匠 榊原 代表取締役 北村 泰雄 様 ● 豊橋筆振興協同組合 ● 豊橋観光コンベンション協会
- 商工会議所 地域振興部 地域振興課 ● 豊橋三大学サマーカレッジチャレンジショップ ● S.I.plant 山本啓介 様
- 豊橋創造大学情報ビジネス学部学生有志

豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト

三好ゼミ 堀江光, 宮崎康平, 大江澄南

概要: 豊橋市には特色のある企業があり、その経営には企業の独自性や理念が込められている。そこで直接話を伺うことで企業の本質に迫り、企業の特色や魅力を調べる。その結果から豊橋地域の産業面での強みを明らかにすることを目的とする。本プロジェクトでは特色ある企業を訪問することで豊橋地域の強みを再確認し、それらをまとめ公表することによって豊橋地域のシティプロモーションの一助とする。そのために特色ある企業を種々の視点から調査して調査対象候補を選定する。そして、これらの企業にプロジェクトの趣旨を説明し協力頂ける企業を選出し、インタビュー活動とそのまとめを繰り返す。また、就職活動を控える学生にとっても有意義になるように、企業トップが求める人材像についても併せて調査を行う。

1. 作業スケジュール

1-1 実施の手順（作業のフロー）

本プロジェクトでは、企業のトップインタビューを繰り返し行う。そのために企業選定・訪問の承諾・訪問企業調査・インタビュー内容の検討・資料の準備などの事前準備、訪問してインタビューの実施、その後インタビューのまとめ、以上の3段階の作業を繰り返す。3段階の作業を以下に説明する。

1-2 事前準備作業

インターネットや地元紙から訪問企業の選定し、その後、以下の準備作業を行い、企業訪問を行う。

- 企業訪問のアポイントメント…訪問希望企業に対して学内の人的ネットワークを通して紹介いただき、企画説明とアポイントメントを得る。
- 企業調査…企業の Web ページや関連記事などインターネットから情報収集し、それをもとに意見交換を行う。訪問企業について理解を深める。
- 質問リスト作成…5項目に分けインタビューの大まかな流れを考え、詳細の原案を作成する。
(1)経営者の人物像について(2)企業について(3)豊橋のシティプロモーションについて(4)就職活動について(5)好きな言葉
- 訪問日の段取り…当日の服装、交通手段、持ち物の確認をする。各自の役割分担の打ち合わせを行う。
- 模擬練習…質問リストを最終チェックする。そして、インタビューの練習を兼ねて、当日の行動のシミュレーションを行う。

1-3 インタビューの実施

最初に名刺交換などの挨拶を行い、プロジェクトの主旨を説明後、事前準備に用意したインタビュー内容に沿って、インタビューを行う。訪問日の役割分担は、インタビュー者1人、記録係2人とする。インタビューの記録はICレコーダーとデジカメで行う。帰学後、記録のバックアップを行う。

1-4 まとめ作業

インタビュー後1週間で、インタビューの概要（メモ）を作成し回覧により不足を補う。その後、インタビューを通し学んだことを所見として各自まとめる。そして、Wordにて企業概要やインタビュー内容をまとめ、報告書と Web ページをインタビュー内容に基づいてまとめる。

1-5 2011 年前半の活動

準備は余裕をみて3週間とし、まとめ作業は2週間として作業を進める。2011 年前半に実施した企業インタビューは2社で、以下のスケジュールであった。

訪問企業	訪問日	準備期間
㈱平松食品	6月1日	4月26日～5月30日
㈱エフエム豊橋	7月6日	6月2日～7月5日

2. インタビュー活動中間報告

2-1 株式会社平松食品

名称：株式会社平松食品
資本金：1,000 万円
設立日：昭和 63 年 7 月 25 日
インタビュー相手
：代表取締役 平松賢介様



<会社概要>

日本の伝統食品である佃煮作りを製造・販売している食品会社。特色は伝統的な佃煮作りの技術を継承しながら時代のニーズに合わせた味付けへの創意工夫、食品安全の確保を可能にしたマネジメントシステムが挙げられる。

<インタビュー内容>

今回のインタビューで、株式会社平松食品は味の創意工夫や新しい商品開発を目指していることがよくわかった。例えば、将来における日本の人口減少を睨んだ販売戦略の一貫として海外市場へと選出し、海外の人に受け入れられるように、オリーブオイルに漬けた甘露煮などの新しいタイプの佃煮商品開発に取り組んでいる。また、佃煮の袋詰めを瓶詰に変えるなどの長時間の持ち運びを可能にした商品開発も行っている。付加価値を高めるために海外のモンドセレクションなどのコンテストにも出品し多くの賞を獲得している。将来を見据えての販売戦略や本来の佃煮とは全く違う新しいタイプの商品の開発による購買者の獲得など様々な取り組みをしている元気企業の存在を再確認できた。

2-2 株式会社エフエム豊橋

名称：株式会社エフエム豊橋
資本金：2 億 5,680 万円
設立日：平成 4 年 8 月 18 日
インタビュー相手
：取締役
統括部長 竹内宏和様



<企業概要>

コミュニティ局（地域放送）としては全国で3番目に開局し、中部地方として初の開局放送会社である。地域密着型の放送を目指し豊橋の経済活性化を目的としている。エリア内のラジオ媒体ではNo.1の支持率を確保している。

<インタビュー内容>

FM 豊橋は公開生放送を年間 40 回以上行っている。その理由は、「イベントがあるなら、FM 豊橋」という地域活動とメディアの接点を PR する目的があるからだ。FM 豊橋は地域密着型のメディアであるので、「豊橋でラジオ局と云ったら FM 豊橋」ということを皆さんに知ってもらうことが大切だと言う。FM 豊橋の活動が活発であることは、地域活性化がなされていることであり、イベントの手伝いを行う、放送で盛り上げるなど、メディアと地域活動が共存することを目指している。FM 豊橋はまさに地域コミュニティ局としての存在感を放っていることを改めて知った。

プロジェクトテーマ

情報ビジネス学部 森田ゼミナール

東三河における繊維産業

繊維産業を事例とした就業研究
(プロジェクト演習中間発表会用資料)

プロジェクトの目的

繊維産業は愛知県の伝統産業である。その産業は歴史的に衰退し、困難な状況にある。しかしそこで培われた技術や技能、経営手法は、他の産業に共通するものがあり、繊維産業を例として、産業構造を知り、社会的ありようを研究し、就業研究に役立てることを目的とする。

プロジェクトの内容

1. 繊維産業の製造工程と流通過程
2. テキシタイル製造の現場リサーチ（繊維センター見学）
3. 繊維製品の川上から川下まで
4. アパレル製品の企画と製品戦略（秋学期以降）

三河繊維センターを見学して

- ・ 繊維製品製造における機械の見学（染色機や織機）
- ・ 漁業用の綱の張力実験
- ・ 愛知県の繊維産業の分布

炎の祭典 支援プロジェクト

大場正義・村田政英

プロジェクトの目的

炎の祭典・昼の部を盛り上げるため
 ◇ 実行委員会の取材（ビデオ撮影）
 ◇ 広報用動画の作成（取材ビデオの編集）
 ◇ Webページ上での公開
 を行い、炎の祭典の企画・運営の様子の
 広報を通じて支援（地域振興に協力）する

連携先：豊橋商工会議所青年部（YEG）

炎の祭典とは（豊橋の祭り）

手筒花火を核とした豊橋の観光イベント
 ◇ 今年で16回目（2011年9月10日土曜日）
 ◇ 昼の部：地域振興企画・模擬店
 → 商工会議所青年部が運営
 ◇ 夜の部：「炎の舞」手筒花火の打ち上げ等



活動概要



イベントの企画初期段階から参加し、実際の事業（プロジェクト）運営の流れについても学ぶ

今後の予定

	8月	9月	10月	11月	12月
会議等の取材					
動画編集					
Webページ作成					
Wikipedia編集					

- ◇ 取材（継続）
- ◇ 動画編集 → 完成
- ◇ Webページ作成 → 公開
- ◇ 外部サイトからのリンク作成依頼
- ◇ イベント当日の計画

東三河 Bible

吉川・片岡ゼミ

0.プロジェクトメンバー

宇藤大輔、入江純平、原田和哉、佐野涼平、早川明史

1.はじめに

プロジェクトは複数人で共同作業を行うのが一般的である。

プロジェクトを行っていると必ず、どこかで遅延が起きたり、何かしらのトラブルがおきる事は当然の事であり、一度は経験した事のある話である。では、予め起きるであろうと分かっている事を未然に防ぐにはどうすればいいのか。

我々は完成度の高いプロジェクトにするにあたって、必要不可欠なものは、チームワークの重要性と考える。その一つとしてプロジェクトメンバーとのコミュニケーションが挙げられる。では、これを高めるには何をどうすればいいのかを模索し、HP作成というプロジェクトを通しながら実際に体験する事にした。

2.プロジェクト内容

- ・ 東三河の観光名所や魅力を HP にまとめる。
実際に画面越しの情報だけを頼りにせず、チーム内で数人がいくつのお店や、場所へ行き、自分達で体験をしていく。
- ・ どのようにすれば完成度の高い HP が作成できるのかを考えながら互いに作業確認しながら行う。
- ・ HP 作成を請け負っている企業に企業見学し、実際に話を聞く。

3.考察

プロジェクトを実施していくにあたり、実際に HP 作成を請け負っている企業を見学し、話を聞いてきた。HP 作成はこちら側で行うものでなく、依頼者の注文に従って、完成したものを見せ、注文を受けの繰り返しでよりよい HP を作成していく。仕事を請け負った企業だけで作業を行っていくものでなく、依頼者と話し合い、連携をとりながら、完成させていく。

我々は当初 HP 作成にあたり、これらを実施しておらず、各自の作業は任せきりで行っていた。結果、まとめの作業に入る際に様々なトラブルが発生し、そこで作業がとまってしまった。企業見学後、一度各自の作業を全員でレイアウトなどを確認しあい、修正や訂正を行った。

企業見学で学んだ事を活かし、皆会話をする機会が多くなった。一人一人が積極的に相談等を行う様になり、作業確認を小まめに行う事が増えた。メンバー同士がコミュニケーションをとり始め、チームワークは高まり始め、作業も効率よく進むようになってきた。

4.まとめ

一人一人の作業がたとえ違っても、最後に辿りつく目的は一緒である以上、作業を行う段階から連携をとっていかなくては、完成するにあたりばらばらなものができてしまう。これではよいプロジェクトを完成させる事はできない。コミュニケーションとはただ単に、作業の確認を行うだけではなく、プロジェクトメンバー同士の小さな会話から連携が生まれてくるものだと感じた。

学食広報プロジェクト by 学食おうえん団

上田奈々子, 大野安佑未, 加藤裕加里, 仁崎愛美, 田引俊佑, 斎藤賢太, 田中豪, 中神駿介

プロジェクトの目的

- × 若者の食や健康に対する意識の低下 → 長期的に見て健康に悪影響
- 安価でバランスの良い食事を提供してくれる学食を盛り上げる
- 学生や教職員の食や健康に対する意識を向上させる



学食（企業）との連携
各種広報活動への理解

プロジェクトの概要

◆ 企業連携

- ① メニュー表, 営業日, フェア開催の情報提供
⇒ Web サイトで情報発信することで、利用者の利便性を向上し、利用の促進を図る
- ② インタビューへの協力依頼
⇒ 掲示物（学食便り）にインタビュー記事を掲載することで、学食への親近感を高め、利用率の向上を目指す

◆ キャラクタ作成

イラストには「視線を惹きつける」「親しみを感じる」等の効果があるとされている
⇒ 学食（カフェテリア、キッチン SOZO）のイメージキャラクタを作成し、広報活動に利用



◆ Web による広報活動

- ① PC 用サイトの作成
⇒ ビジュアル性を重視し、各種の情報を統合的に掲載する



- ② 携帯用サイトの作成
⇒ テキスト中心の「軽い」サイトとし、1週間分のメニューのみを掲載する

◆ 印刷物による広報活動

- 学食便り（ポスター）の作成、掲示
- ⇒ Vol.1 活動の告知、Web サイトの紹介
- ⇒ Vol.2 インタビュー、夏の野菜特集



今後の活動計画（新規の取組）

◆ OBとの連携

- 広告系の企業に就職したOBとの交流
⇒ 実際の現場でのお話を聞かせて頂いたり、制作物についてのアドバイス等を頂くなど、交流を図りたい

◆ その他

- ① Web アンケートの実施
⇒ Web サイトにアンケートシステムを実装し、人気メニューの調査、学食への要望など、広く情報を集めたい
- ② メニューコンテストの実施
⇒ 新規メニューの提案等、多くの学生を巻き込んで学食を盛り上げていきたい

今後のスケジュール

